

平成30年度「スポーツに関する実態調査」について
 (「関西圏スポーツモニタリング調査 2018」)



関西広域連合

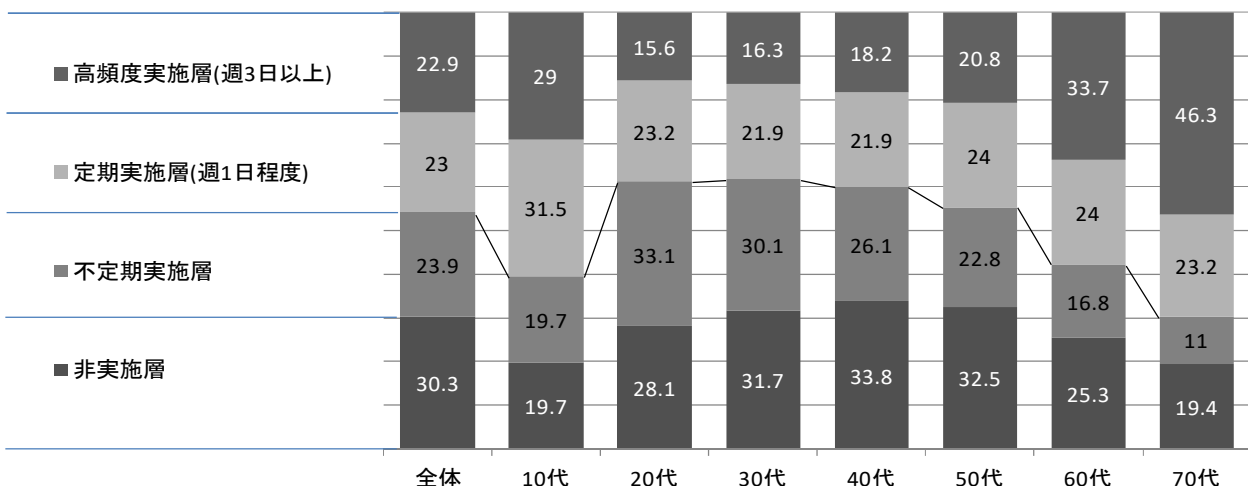
令和元年 7 月 7 日
 広域観光・文化・スポーツ振興局
 スポーツ部

- 1 調査目的：関西広域連合圏域内府県市民の、スポーツ活動の実態と健康に関する意識及びスポーツ振興施策に対する要望を把握し、関西広域連合のスポーツ振興の基礎データ収集を目的とする。
- 2 対象者：関西広域連合圏域内在住の満18歳以上の者（GMO リサーチ登録モニター）
- 3 調査方法：WEB アンケート調査
- 4 調査期間：平成30年12月6日～12月10日
- 5 回収数：10,000件
- 6 調査概要・結果

① スポーツ参画の現状

- ・スポーツ実施率は、週1日以上 of 定期実施率が約46%（国スポーツ基本計画の目標65%）、週3日以上 of 高頻度実施率は約23%（同目標30%）となった。週1日程度及び週3日以上の合計は、20代から40代が低く、70代が最も高い。【図1】
- ・過去1年間のスポーツ実施種目は、多い順に「散歩」47.3%、「ウォーキング」34.1%、「筋トレ」13.6%、「ジョギング」11.3%、「体操」9.5%、「サイクリング」8.8%となった。
- ・女性は家族と一緒にスポーツを実施している傾向が見られた。（20代～70代で20%以上）

【図1】 過去1年間のスポーツ実施率（%）



【今後の方針】

- ・スポーツ実施率（約46%）が国スポーツ基本計画の目標（65%）を下回っているため、20代から40代を中心に実施率を向上させることが必要。
- ・スポーツ実施種目は、散歩、ジョギング、サイクリングなど、個人スポーツが多いことから、これを支援する取り組みが必要。（例：歩行者専用道やサイクルルートの情報発信）
- ・女性のスポーツ参画には、家族で取り組めるスポーツやイベントが有効。

② スポーツ参画の潜在性

- ・現在スポーツに取り組んでいる理由及び、今後スポーツに取り組みたい理由とも、多い順に「体重・体型の維持」「体調管理」「病気予防」「趣味・娯楽」「体力・機能回復」となり、志向別では、ヘルススポーツ志向が顕著であり、今後増加の期待できる潜在規模は「体力・機能回復」が最も高い。【図2】
- ・スポーツに取り組むきっかけとしては、「時間的余裕」「体型・体力」「意欲」「プログラムの利便性」「体調」が5%以上を示した。

【図2】 スポーツ参画志向別にみた関西圏の推定潜在規模

	運動・スポーツの目的や楽しみ方	希望率		関西圏 推定潜在人口
		現状率	潜在率	
ヘルススポーツ志向	「防ぐ」(例: 病気や障害の予防のため)	47.2%	6.4%	115万人
	「保つ」(例: 体重・体型の維持・改善のため)	57.0%	2.9%	51万人
	「治す」(例: 体力や機能回復のため)	31.0%	13.9%	248万人
	「整える」(例: 体調管理や改善のため)	48.0%	6.4%	114万人
レジャースポーツ志向	「遊ぶ」(例: 趣味や娯楽として)	44.9%	2.7%	47万人
	「交わる」(例: 家族との交流のため)	29.9%	4.4%	78万人
	「充たす」(例: 週末の余暇の充実のため)	32.2%	3.3%	59万人
	「巡る」(例: 旅行先でのレジャーとして)	21.5%	5.0%	89万人

【今後の方針】

- ・スポーツ実施率を上げる為には、潜在率の高いヘルススポーツを支援する取り組みが有効。

③ 国際スポーツイベント

- ・WMG2021 関西大会への参加関心率は、全体で15.4%となった（「是非参加してみたい」2.0%、「参加してみたいが条件次第」13.4%）。年代別では、30代20.1%、40代16.2%、50代14%、60代11.7%、70代8.7%と年代の上昇とともに下がっている。

④ スポーツキャリアと健康状態

- ・健康に対する自信（自己評価）は、全体で60.3%となり、年代の上昇とともに高くなる傾向が見られ、70代以上では68.7%となった。

【今後の方針】

- ・WMG2021 関西大会への参加を促進するためには、健康に自信がある世代（60代、70代）への参加PRが有効。